

## 平成28年3月期業績予想の修正に関するQ&A

**Q: T&Mが減収となった背景と地域別内訳を説明してほしい。**

**A:** スマートフォン市場の劇的な構造変化を背景として、主力の計測事業、及び、グループ連結業績の通期見通しを下方修正致しましたが、アジアにおける端末製造市場の縮小とそれに伴う主要プレイヤーの投資抑制及び北米市場における基地局建設需要の低迷は第4四半期においても引き続き強まっており、受注・売上が更に下振れる見込み。  
地域的には、米州、EMEA、およびアジアで、それぞれ同程度の減収を見込んでいます。

**Q: モバイル市場の主要プレイヤーの投資が抑制されている背景を説明してほしい。**

**A:** スマートフォンは世界的に普及が進み出荷台数の伸び率が鈍化し、並行して端末の市場価格の低価格化が進行している。スマートフォン市場全体の収益性は従来より低下しており、投資に慎重な姿勢が見られている。

**Q: 営業利益減額の内訳は？**

**A:** 売上の減少に伴う営業利益の減少が10億円、リストラに伴う営業費用が2億円。

**Q: T&M事業の4Q受注は 180~190億円を目線としていたと思うが 4Qの進捗はどうか。**

**A:** 現在までの進捗率は計画線を若干下回っている。

**Q: 為替差損5億円の内訳を聞きたい。**

**A:** 外貨建の売上債権に対する為替差損。

**Q: Q3迄のリストラで組織の再構築は一段落したと捉えていたが、追加リストラの詳細を聞きたい。**

**A:** 主に米国子会社の来年度の収益を改善するために、組織のスリム化を実施した。今年度のトータルでのリストラ関連費用は7億円となる。

**Q: 今年度実施したリストラによる来年度の費用削減効果はどの程度と試算しているのか？**

**A:** 詳細は精査中であるが、FY2015比で5~8億円程度の効果を見込んでいる。

**Q: 配当についての考え方を知りたい。**

**A:** 連結業績に応じるとともに、総還元性向を勘案した利益処分を行うことを基本方針としている。2015年度の配当は創業120年の記念配的な要素があるとともに資本効率を向上させる観点から24円を維持した。

**Q: 来年度に向けたコストの考え方は？**

**A:** IoT市場の拡大や第5世代方式(5G)等に向け投資が必要な時期ではあるが、R&D費も含め効率化を進める方向で計画を進めている。

**Q: 2016年度の見通しを聞きたい。**

**A:** 来年度の見通しは、今後のモバイル市場の動向とR&D投資計画及び固定費削減策を勘案したうえで、今期の業績発表と併せて発表する。